

科技高 いきものの記

Vol.49 2022.4.19

生物教員 佐藤龍平

校庭から12種類目のアリを発見！ オオウロコアリ

「越冬しているスズメバチの女王を見つけました。」ハチ好きのタツキが唐突にそう教えてくれた。ケースを見てみると確かに、コガタスズメバチの女王バチが入っていた。話を聞くと、校庭横に置いてある朽ち木を掘って見たら見つけたそうだ。スズメバチなどの社会性のハチは、女王だけが越冬し、春にまた新しい家族をつくる。その女王は朽ち木などで越冬する...というのは聞いたことがあったが、正直、学校で見つかるとは思わなかった。相変わらず、すごい...

早速、朽ち木の場所を案内してもらい、他にもいないか一緒に探してみる。残念ながらスズメバチの越冬女王は見つからなかったが、**思わぬ発見があった**。これまたタツキが、「ん？すごく小さなアリがいますよ。」と朽ち木から1匹のアリを見つけてくれたのだ。おー、なんだろ？小さいしヒメアリかな？と思って見ていたが...ん？！なんだこの頭？！よく見ると**細長いハート型の頭に、長いキバがある！**なんじゃこのへんてこなアリは！どう考えても、**今まで校庭では見たことがない初登場のアリだ**。

調べた結果、この奇妙な姿のアリは、ウロコアリの仲間の**オオウロコアリ**であると判明した。ちょうど1年前に書いた「いきもの記Vol.25」では、校庭から11種類のアリを見つけたことを報告した。それから追加されていなかったのも、これで**12種類目の発見**だ。文献には、オオウロコアリは都会でも普通に生息して、朽ち木などの湿った環境で小さなコロニーをつくって暮らしていると書いてある。都会にもこんなに格好良いアリがいたのかー。やっぱり、見つけられていないだけで、まだまだいろんな種類が生息していそうだな。

「朽ち木を見ると掘らずにはいられない」というタツキは、この後も**なんと追加でオオウロコアリの女王アリを発見した**。生き物を見つける「目」がすごすぎて、気づけば私は、タツキに渡された生物の写真をただただ撮影していくだけの係になっていた。

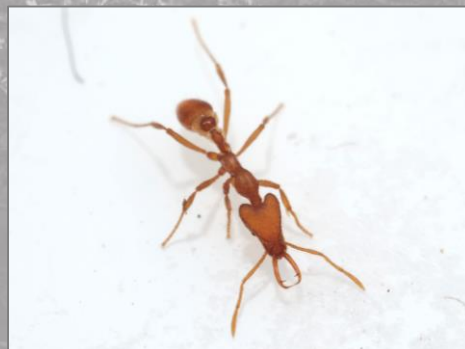


朽ち木の中のオオウロコアリ *Strumigenys solifontis* 体長2~3mm

ハート型の頭に大きなアゴを持つ、面白い姿をしたアリだ。とにかく小さくて肉眼ではよく分からない。また、動きが鈍いので、一度見失うとどこにいるか分からなくなる。



校庭横の木材置き場に貯まった朽ち木。



働きアリ。この大きなアゴでトビムシなどを捕らえる。



アゴを広げる働きアリ。ほぼ180°開いている（白矢印）。噛まれたら痛そうだ。



女王アリ。からだやや大きく、暗褐色。おでこに3つの個眼がある。